

## 経営協議会学外委員の意見を活用した法人運営の主な改善事例

区分		経営協議会学外委員からの意見概要	主な取り組み事例
令和2年度	第1回(令和2年6月18日開催)	インターンシップに力を入れてはどうか。インターンシップは、学生にとって、大学で学べない・提供できない体験ができ、企業との出会いの場であるため、学生にとって、現場を知り、視野拡大の機会になると思う。ぜひ、支援拡大に向けて取り組んでほしい。	『企業と学生』、『企業と大学』の接点を増やすことで、労働力の確保、学生採用、大学との連携を期待する企業側のニーズに答えることを目的に、インターンシップ型アルバイト事業を実施した。実際に、授業で習得した知識・スキルを活かせるだけでなく、社会の現場で職業選択、適正の見極めを体験することができるなど、インターンシップのメリットを取り入れたアルバイトとなっており、7社に22名が採用された。
令和2年度	第1回(令和2年6月18日開催)	新たな国際化として、派遣だけでなく、様々な手段により取り組んでもらいたい。	新たな国際交流機会の創出を目的に、オンライン交流、オンライン留学を実施した。また、海外協定校と今後の学生交流に関するオンライン打ち合わせを実施し、新規プログラムの開拓につながった。
令和2年度	第5回(令和3年3月19日開催)	大学フェロースhip創設事業について、期待している。 例えば、学内の申請書類を、日本学術振興会の特別研究員の申請様式と合わせた様式としてはどうか。	学内申請にかかる研究計画書を、日本学術振興会の特別研究員の申請様式と合わせた様式に制定した。